

自己評価 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:(できていない)<80 ●達成度は、28年度目標値に対する平成29年1月末の評価値で算出

		評価計画											学校関係者評価		
学校が果たす役割	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	28年度目標値	27年度	27年度	28年度	28年度	評価	結果(課題)と改善方策について	評価値の元データ	評価	コメント
							評価値	達成度	評価値	達成度					
確かな学力の育成	基礎学力の定着	望ましい学習習慣の形成	教務	望ましい学習習慣の形成と学力の向上 ①授業の始めと終わりの時間厳守、挨拶の徹底と、望ましい授業態度の育成	(1)望ましい授業態度が身に付いている生徒の割合(昨年目標値95%)	98%	96%	98%	92%	94%	B	2年生のアンケート結果が84%と低くなった。昨年度(1年次)も89%と低くなっており、けじめのある態度で授業に参加できない生徒がいることをうかがわせる。厳しい指導と同時に、指導する側の授業力を向上させていく必要があると考えられる。	生徒アンケート①と②	B ・国家試験合格による資格取得者が多く、まじめな取り組みがうかがえてよかった。よいアピールになるものと思われる。	
				②適切な課題による家庭学習の習慣化	(2)課題等を提出している生徒の割合	95%	92%	97%	91%	96%	B	昨年度よりさらに1ポイント提出率が下がった。特に2学期の提出率が80%台になったことが響いている。全教員で共通認識を持ち、粘り強い指導がなされていると思うが、ルーズな生徒と、学力が不足している生徒の両面から対策をする必要がある。	校内統計		
		個に応じた教育の推進	教務	TT及び個別指導の実施 ①TT・少人数指導の効果的な実施 ②個別指導の充実	(3)教材や教え方が工夫されていて、授業内容が理解しやすいと感じている生徒の割合	87%	81%	93%	80%	92%	B	1・2年生で低い数値が出ている。生徒の自己肯定感が1・2年生で低いが、授業が分からないことも多分に影響していると思われる。授業改善は学校全体の大きな課題と認識し、授業互見等による教員の評価、また生徒の授業評価も分析しながら、指導力の向上を図らねばならない。	生徒アンケート⑥		B ・小中学校で基礎学力が十分に養われなかった生徒たちが散見される一方で、成績優秀者がリードしていく雰囲気さらに広がるとよい。
	読書習慣の育成	図書	読書への意欲喚起 ①利用しやすい雰囲気作り ②図書購入リクエストの実施 ③「図書館だより」の充実 ④朝読書の支援	(4)朝読書に意欲的に取り組んでいる生徒の割合	95%	96%	101%	93%	98%	B	生徒が朝読書に取り組む様子はここ数年安定してきているが、クラスによってはまだまだ温度差があり、中には教科書や参考書を開いてお茶を濁している生徒も散見されるようである。そうした影響が全体で3ポイントダウンという評価に繋がったものと思われる。特に1年生では昨年より5ポイントダウンしており、指導の難しさを伺わせる。生徒が「本を読まない(読めない)」という状況は平素の様々な場面で影を落とすわけだが、そうした力は一朝一夕に改善するものではなく、短くとも継続が必要である。今後一層利用しやすい図書館を目指すと共に、本校にとって朝読書が必要なものであるということが全校に理解されるように努めたい。	生徒アンケート③	B ・(2)に関して提出物等のルーズさの改善のための指導は困難さもあるうが、教員側で継続的に行っていただきたい。		
				専門高校の特色を生かす	商業・情報教育の推進	商業	特色ある商業・情報教育の推進 ①充実した施設・設備を活かした先進的な授業の実施 ②資格取得・検定合格のための指導の充実 ③情報ITフェアの成功とビジネスマナー教育の推進	(5)県商研表彰生徒(1級2種目以上取得等)の割合が3年生(99人)の20%以上	100%	75%	80%	86%	86%	B	3年生17名が表彰対象となり、昨年度の10名から増加し、また、国家試験をはじめ上位級を意欲的に受験する生徒が例年以上に増えた。また、応用情報技術者試験に県内の高校では本校の生徒のみが合格するなど、向上心を持って取り組む雰囲気が高まってきている。
	情報ITフェアでの経験は自分にとって役立つと感じた生徒の割合	(6)情報処理国家試験の合格人数5名以上	100%	80%	80%	140%	140%	A	ITパスポート試験をはじめ、難易度の高い基本情報技術者試験、そして応用情報技術者試験にも合格し、合計7名(のべ10個)の合格者が出た。また、さらに高い目標に向かって意欲的に取り組む雰囲気が出来上がってきた。県のIT人材育成事業も本校実施2年目となり、今後より一層情報教育の底上げと、上位資格に合格できるよう指導方法の工夫と改善を図りたい。	校内統計	A ・学校側が各指標の目標値を高く設定し、厳しめの自己評価を行っているように思われる。				
		(7)情報ITフェアでの経験は自分にとって役立つと感じた生徒の割合	95%	92%	97%	88%	93%	B	情報ITフェアは、生徒が責任とやりがいを感じながら業務を行い、来場者に喜ばれるサービスを全校生徒一丸となって提供できた。第1回目、そして全国初の取り組みであったことを考えると成功と呼べるのではないかと。また、従来の取り組みに縛られることなく、本校らしい取り組みへと変化させたことは大きな意味のあることだと感じている。今後は、より本校らしい学校行事にするための改革を行いさらに充実するよう努めたい。	生徒アンケート④					
		豊かな人間性の育成	豊かな人間性の育成と情操・道徳性の涵養	生徒	基本的な生活習慣を育成する指導 ①個々の登校状況を把握し、全教員が連携した欠席・遅刻の防止(週2回、月5回以上の遅刻を目安に個別指導実施) ②挨拶の励行(立ち止まって挨拶するよう指導) ③計画的指導にもとづく頭髪・服装規定の遵守、徹底 ④礼法指導の徹底(ウィークスタートの実施)	(8)毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	98%	99%	99%		100%	A	欠席が多い生徒については個々に対応しているが、今後も家庭との連携を取り、よりよい方向に導けるよう努力したい。欠席が多い生徒は進路決定も難航する傾向が強く、そうしたことを生徒・保護者にしっかりと伝えていきたい。	校内統計
	(9)遅刻をしない生徒の割合	99%			99%	100%	100%	101%	A	遅刻をしない割合は通院等による遅刻も含めて99.8%であり、今年度も寝坊等による遅刻が少ない状況が続いている。遅刻をした生徒は遅刻届を提出するが、その際の声掛けなども通して、さらに遅刻を減らせるよう指導したい。	校内統計				
	(10)身だしなみをきちんと整えている生徒の割合	95%			96%	101%	91%	96%	B	全般的に身だしなみを整えるようになってきている。ただし、前髪・襟足、髪を結ぶ等一貫した徹底指導にはいたらなかった。普段から声掛けをし、生徒の意識を高めていきたい。	校内統計				
豊かな人間性の育成	人権意識の高揚を図る	人権・同和教育の推進	人権・同和教育推進委員会	他人を思いやる心、感動する心の育成 ①生徒会・部活動の活性化 ②上級生が下級生をサポートする仕組み(JS制度)の創設 ③アンケートQU(心理検査)の実施と活用	(11)自分の居場所があり、人から認められていると感じている生徒(アンケートQUで学級生活満足群に属する生徒)の割合が、52%以上<前年度の本校の値+5%>	90%	100%	111%	92%	102%	A	アンケートQUの結果からでは、判断できない部分で、細々とした生徒間の問題が生じていた。人間関係でコミュニケーションがなかなか取れていない部分も大きいと思われる。他者を思いやる心、自尊感情の育成など、生徒・教員間のコミュニケーションを図り生徒理解に努め、より良い指導を考えていかなければならない。	アンケートQU結果 本校 53.0% 全国 36.0%	A ・(12)について、自己肯定感が高くない傾向があるのが気にかかる。自信を持たせる指導が必要ではないか。また目標値を見直してもよいのではないか。	
				(12)自己肯定感が高い生徒の割合	75%	66%	62%	83%	B	3年生は、進路活動等を通じて自身と真剣に向き合い、目標を達成できたということもあり高い値であったが、1・2年生はかなり低い値であった。今後、普段の学校・家庭生活において、多面的に生徒を観察し、生徒の良いところを褒める、スモールステップで成功体験を積ませるなど、自己肯定感を持たせる活動を推進する。	生徒アンケート⑫	B ・QUアンケートを継続実施していただきたい。 ・(13)については目標値を高めた方がいいかも知れない。ただ、人権意識の高揚については学校教育のみでは対応しにくい部分なのでないか。			
	(13)差別や人権問題を自らの問題として捉えている生徒の割合	60%	88%	147%	A	今年度もHR活動や全体指導において、人権意識を高める活動を行っている。学年が上がるにつれ評価値が高くなっており、活動の積み重ねが現れていると感じる。今後はそれに加え、差別(いじめを含む)を許さない環境をつくる取り組みを具体的に検討・実施する。	意識調査7-①								
	(14)人権に関わる講演会やLHRの活動が自分を見つめ直す機会になったと感じている生徒の割合	90%	86%	101%	82%	91%	B	講演会のテーマやHR活動の内容を、生徒がより自身の核心に迫るものに改善していきたい。	生徒アンケート⑦						

自己評価 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:(できていない)<80 ●達成度は、28年度目標値に対する平成29年1月末の評価値で算出

評価計画				自己評価							学校関係者評価		
学校が果たす役割	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	28年度目標値	27年度	28年度	評価	結果(課題)と改善方策について	評価値の元データ	評価	コメント
							評価値	27年度達成度					
進路保障	進路指導の充実・強化	進路指導の充実及び定着指導の強化	進路商業総務	望ましい勤労観・職業観の育成 ①LHR等を利用した計画的な進路指導の実施	(15)在学中に進路決定する生徒の割合	100%	100%	100%	98%	98%	B	校内統計	・好景気に助けられている面もあるが、順調な進路指導がなされていることがうかがえる。先生方のご指導に感謝したい。
				②企業見学、インターンシップの実施 ③外部講師を招いた進路ガイダンスの実施 ④ハローワーク、県関係機関等との連携強化 ⑤進路面談の積極的実施と、進路情報の確実な提供 ⑥各種適性検査や学力模試の実施と活用 ⑦修学支援制度の活用推進			(16)進路に関する学習や適切な進路指導を受けていると感じている生徒の割合	90%					
たくましく生きるための健康・体力	健康教育の推進	安全で清潔な環境作り	保健	校内美化活動の推進 ①清掃指導の徹底 ②安全点検の定期実施 ③教員及び生徒(委員)による校内巡視の実施 ④ゴミの分別収集の徹底	(17)真面目に掃除に取り組んでいる生徒の割合(昨年目標値95%)	95%	92%	97%	92%	97%	B	生徒アンケート⑧	・(18)は評価値が下がっている。学校教育での取り組みが望まれる。例えば、掲示物での啓発、保護者への呼びかけ、家庭科の授業を通しての指導などを行うとよいのではないかと。 ・(21)において、安全マナーが向上していることがわかりすばらしい ・(22)の自転車のは基本事項であり、施錠率についてはさらなる向上を望む。家の施錠徹底にもつながり、ひいては自分のものを自分で管理していく習慣につながるものと思われる。
				保健に関する啓発 ①生活習慣に関するアンケートの定期実施 ②「保健だより」・「壁新聞」による意識啓発	(18)朝食をとっている生徒の割合	95%	88%	93%	78%	82%	B	保健委員会アンケート	
				教育相談体制の充実 ①スクールカウンセラーによる教育相談の実施(月1,2回) ②「明るい学校推進委員会」の定期実施	(19)年間欠席日数が30日未満の生徒の割合	99%	98%	99%	98%	99%	B	校内統計	
				部活動への積極的参加の促進 ①部活動紹介や部活動体験期間の内容の充実 ②外部講師の招聘	(20)部活動に入っている生徒の割合	85%	88%	103%	83%	98%	B	校内統計	
				安全に関する自己管理意識の高揚 ①街頭指導(春・秋)の実施 ②貴重品の管理と自転車の施錠の徹底 ③自転車点検の実施(年複数回) ④交通安全指導の実施(交通マナーの遵守) ⑤不審者情報等の情報提供、周知徹底	(21)自転車のマナーを守り、事故防止につとめている生徒の割合	98%	96%	98%	98%	100%	A	生徒アンケート⑨	
安全意識の高揚	生徒	(22)自転車の施錠率(昨年目標値95%)	校内統計	年度初めについては、委員会活動の取り組み・教員の見回り等で自転車の施錠率は向上したが、委員会活動・教員の見回り等実施していないときの施錠率は低かった。昨年度に比べれば、自転車の施錠意識は向上してきているが、もう少し、自己管理の徹底意識を向上させていきたい。									
				自転車マナーについては、警察からの報告に上がってきた件数が数件と他校に比べれば、とても少ない件数であった。ただし、あくまでも警察からの指導を受けた件数であるので、並列・携帯電話・イヤホン等危険を伴う運転については、定期的に喚起していきたい。									
信頼される学校	授業力の向上を図る	学習内容と指導の充実	教務	教科指導力の向上と分かりやすい授業の工夫 ①公開授業・研究授業の実施と互見による教科指導力の向上 ②シラバスに基づいた入念な教材研究と指導	(23)公開授業、授業参観を合わせて5回以上行った教員の割合	100%	100%	100%	97%	97%	B	校内統計	・(23)については、4回という目標を達成できたため、以前と同じ5回に戻したものの、今回わずかに目標に届かなかった。次年度は5回の目標を全員が達成できるよう望む。 ・ボランティア活動の機会が増えるのはいいことであり、積極的に参加させていきたい。 ・地域との連携強化を今後も期待したい。
				PTA活動の一層の活性化 ①「PTA会報」等の発行 ②HP・携帯電話用HPや文書による学校からの情報提供充実 ③各種研修会等の充実	(24)PTA会報、学年だより等を読んでいる保護者の割合	90%	73%	81%	75%	83%	B	保護者アンケート⑦と⑧	
	地域との連携 ①地域ボランティアへの積極的な参加の奨励 ②安来市主催の催しやその他諸地域の活動への参加	(25)地域ボランティアに参加している生徒の割合 ①依頼件数に対する参加割合	60%	①41%②91%	①68% ②152%	55%	92%	B	校内統計				
	中学校との連携 ①出前授業、招待授業の実施 ②オープンキャンパス実施 ③中高連絡会の充実と学校説明会への積極的参加 ④部活動での連携 ⑤小中学校教員対象研修の実施 ⑥合同教科部会、合同公開授業の実施	(26)連携ができたと感じている教職員の割合(昨年目標値70%)	75%	50%	67%	73%	97%	B	教員アンケート⑩				
地域と連携し、地域に開かれた学校づくりの推進	保護者、地域、中学校との連携の強化・深化	総務 生徒商業	地域との連携 ①地域ボランティアへの積極的な参加の奨励 ②安来市主催の催しやその他諸地域の活動への参加	(25)地域ボランティアに参加している生徒の割合 ①依頼件数に対する参加割合	60%	①41%②91%	①68% ②152%	55%	92%	B	校内統計		
総務 教務商業	中学校との連携 ①出前授業、招待授業の実施 ②オープンキャンパス実施 ③中高連絡会の充実と学校説明会への積極的参加 ④部活動での連携 ⑤小中学校教員対象研修の実施 ⑥合同教科部会、合同公開授業の実施	(26)連携ができたと感じている教職員の割合(昨年目標値70%)	75%	50%	67%	73%	97%	B	教員アンケート⑩				